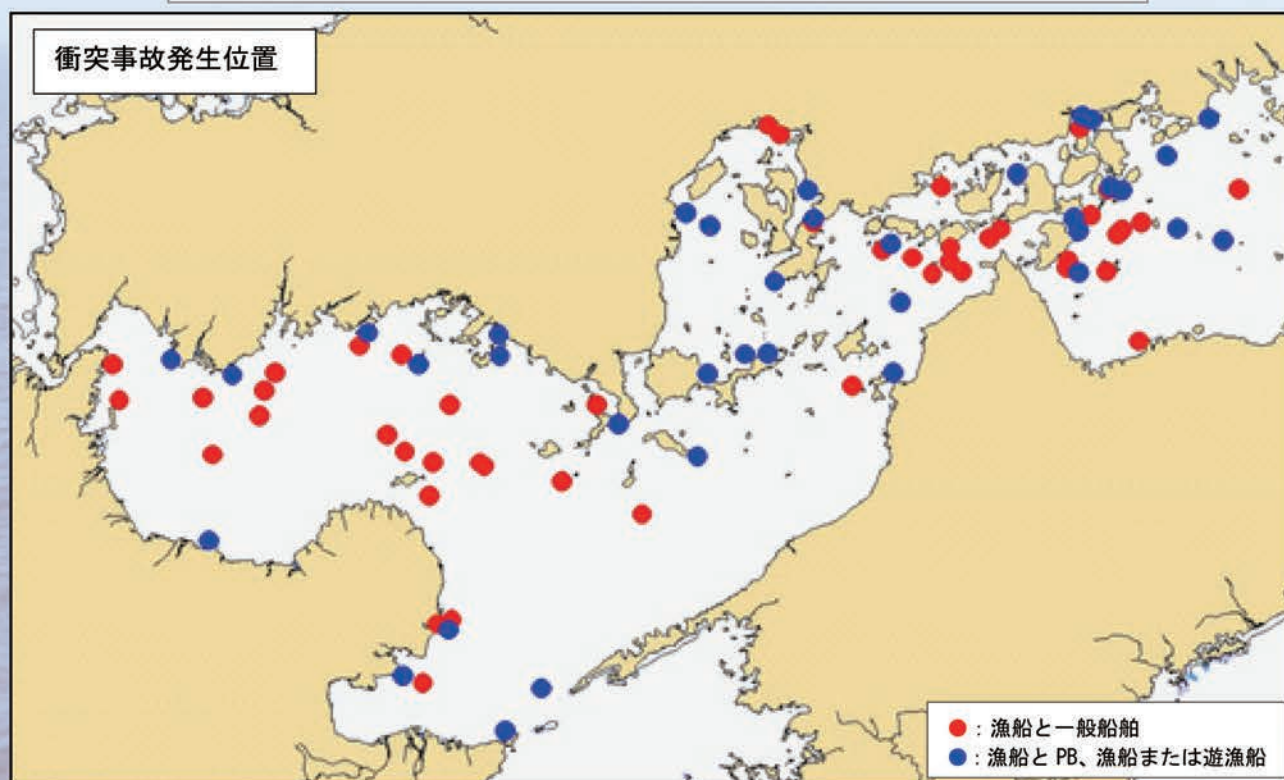
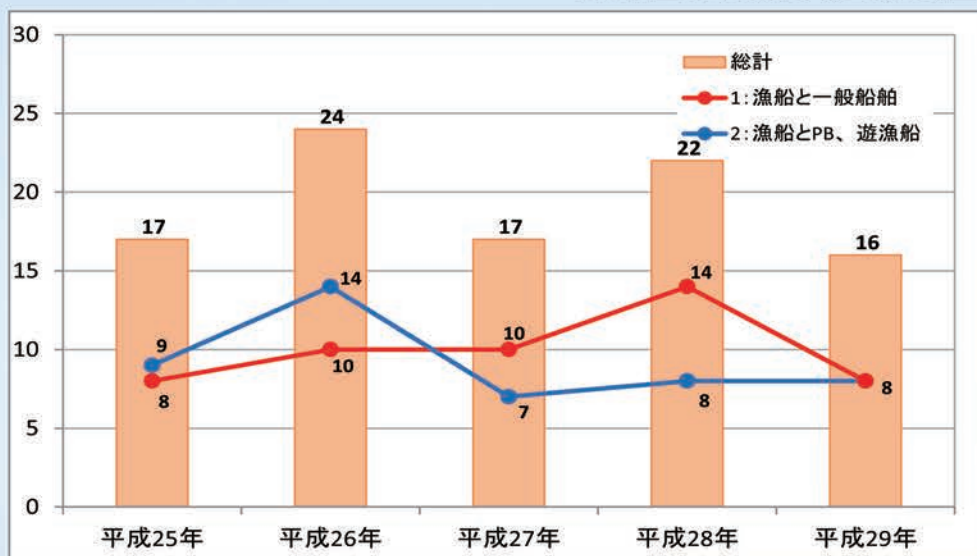


# 瀬戸内海西方海域における 漁船と一般船舶との海難発生状況

瀬戸内海西方海域で発生した漁船の衝突事故を見ると、平成25年1月1日～平成29年12月31日の5年間で96件発生しています※。

そのうち漁船と一般船舶の衝突事故が50件、漁船とプレジャーボート（PB）、漁船または遊漁船との衝突事故が46件でした。

※海上保安庁交通部安全対策課提供



# 小型機船底びき網漁業

## 操業中の主な特徴等

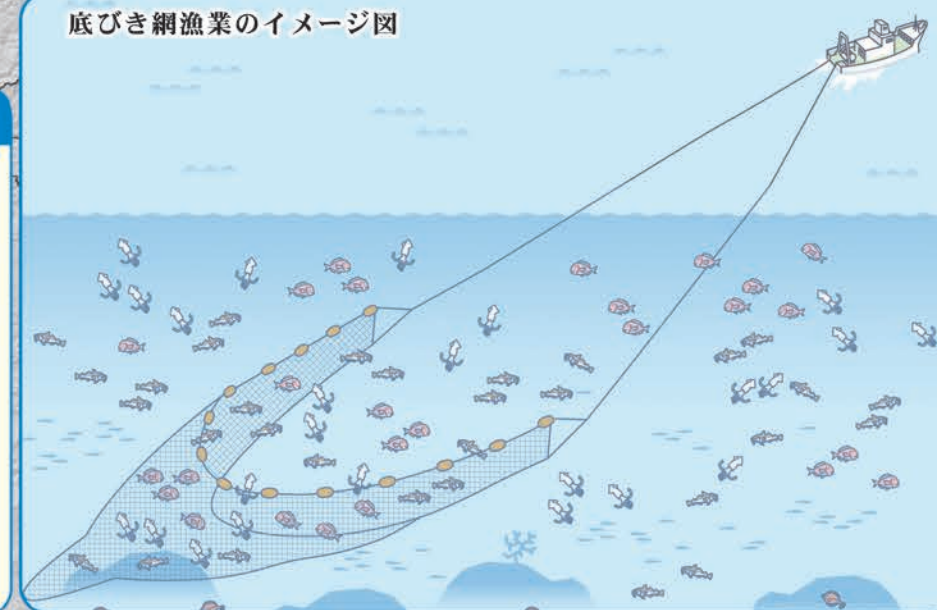
- ・揚網中の漁船は、**見張りが十分にできない**ことがあります。注意が必要です。
- ・曳網、揚網中の漁船は急に舵を切ると転覆の可能性があるため**操船の自由が利かず、避航動作が困難**な場合があります。注意が必要です。
- ・揚網中の漁船はワイヤーの張りや海底障害物への網のかかり等から、**後進することが**あります。注意が必要です。
- ・**投網直後の漁船は急に動き出す**ことがあります。注意が必要です。
- ・**揚網直後の漁船は急に増速する**ことがあります。注意が必要です。
- ・航海灯等の他に**黄色などの回転灯**を点けている漁船が多く、見張りの目安になります。

## 小型機船底びき網漁業とは

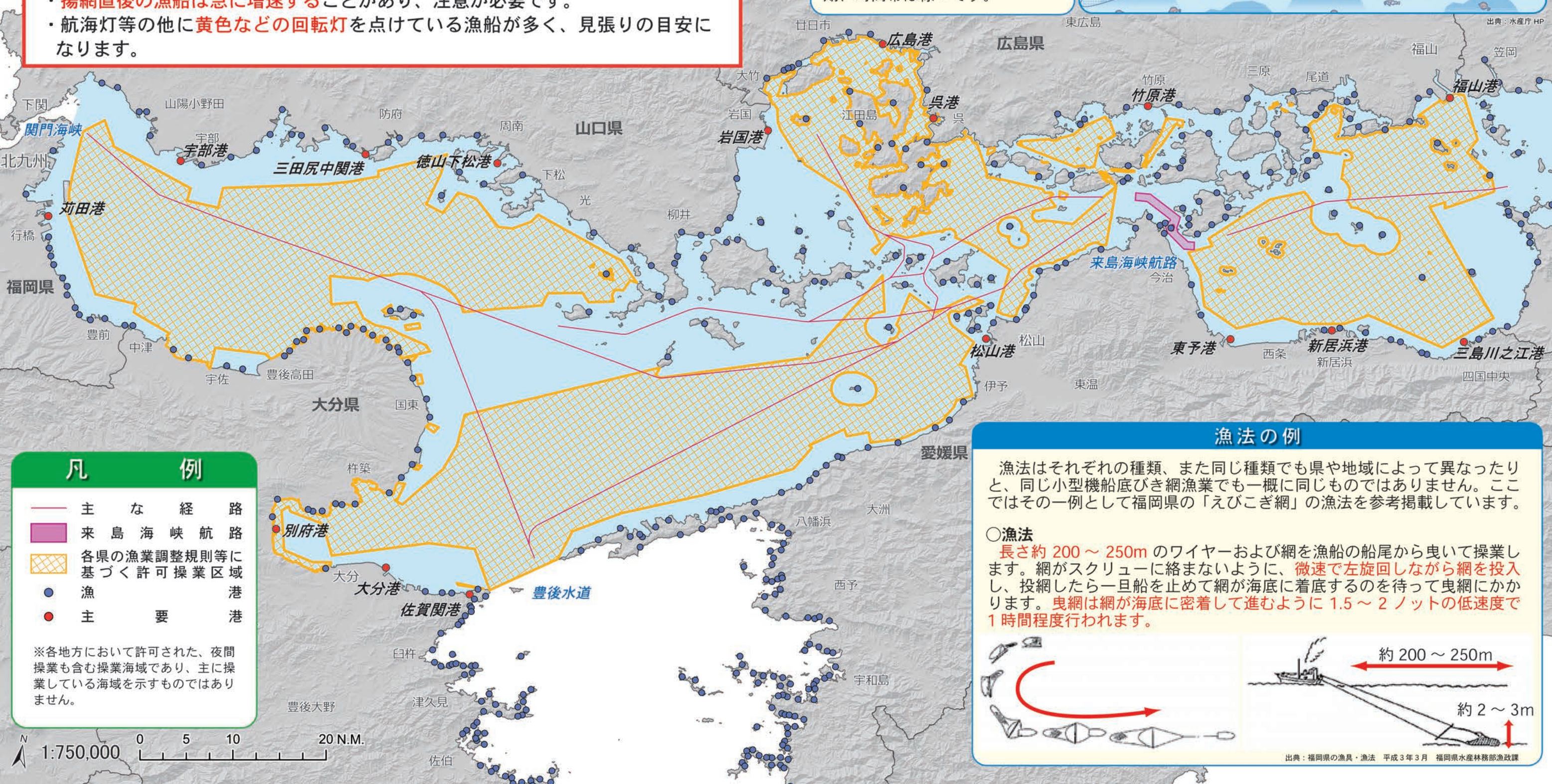
小型機船底びき網漁業とは、漁船の船尾から海底に接するように網をひき、魚介類を獲る漁です。

瀬戸内海西方海域で行われる小型機船底びき網漁業は、主に1～2名が乗船する5トン未満の漁船で行われ、地域によって時期、時間帯は様々です。

底びき網漁業のイメージ図



出典：水産庁 HP



## 凡 例

- 主 な 経 路
- 来 島 海 峡 航 路
- 各県の漁業調整規則等に基づく許可操業区域
- 漁 港
- 主 要 港

※各地方において許可された、夜間操業も含む操業海域であり、主に操業している海域を示すものではありません。

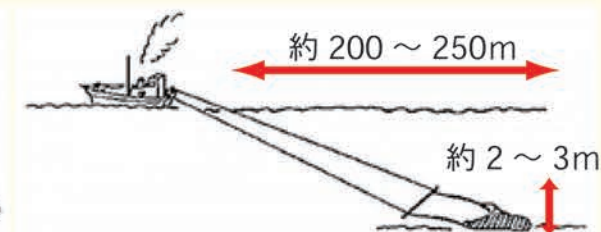
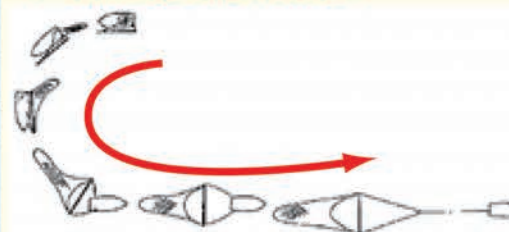
1:750,000 0 5 10 20 N.M.

## 漁法の例

漁法はそれぞれの種類、また同じ種類でも県や地域によって異なったりと、同じ小型機船底びき網漁業でも一概に同じものではありません。ここではその一例として福岡県の「えびこぎ網」の漁法を参考掲載しています。

### ○漁法

長さ約 200 ～ 250m のワイヤーおよび網を漁船の船尾から曳いて操業します。網がスクリーンに絡まないように、**微速で左旋回しながら網を投入**し、投網したら一旦船を止めて網が海底に着底するのを待って曳網にかかります。曳網は網が海底に密着して進むように 1.5 ～ 2 ノットの低速度で 1 時間程度行われます。



出典：福岡県の漁具・漁法 平成 3 年 3 月 福岡県水産林務部漁政課